

2020年11月6日

二酸化炭素地中貯留技術研究組合

「二酸化炭素地中貯留技術研究組合への新規組合員の加入」について

二酸化炭素地中貯留技術研究組合は2016年に設立されました。地球温暖化対策上の重要な技術である、CCS (Carbon dioxide Capture and Storage)の実用化を目指して、我が国の貯留層に適した実用化規模(100万トン/年)でのCO₂地中貯留技術の開発や、CCSの社会受容性の獲得を志向した研究開発を行っております。この度、電源開発株式会社およびJX石油開発株式会社が新たに組合員として加入しました。安全かつ大規模・効率的なCO₂地中貯留技術の実現に向け、一層研究開発を加速して参ります。

二酸化炭素地中貯留技術研究組合の概要

(1) 実用化に向けた取り組みの概要

- ・ CO₂圧入・貯留の安全管理技術の確立
- ・ 大規模貯留層有効圧入・利用技術の確立
- ・ CCS普及環境整備・基準の整備

(2) 所在地： 京都府木津川市木津川台9丁目2番地

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構内

(3) 理事長： 山地 憲治 (公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 副理事長)

組合員： 応用地質株式会社、国際石油開発帝石株式会社、石油資源開発株式会社、大成建設株式会社、電源開発株式会社*、JX石油開発株式会社*、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 (6企業、1国立研究開発法人、1公益財団法人、*：新規加入組合員)

以上